

## 組織的な若手研究者等海外派遣プログラム報告書

氏名： 伊藤 雅之	提出日：平成 25年 2月 1日
<b>東南アジア研究所における職名： 助教</b> *右記の該当する職位に○をつけて下さい。(講師・ <b>助教</b> ・助手・ポスドク・博士課程学生・修士課程学生・学部学生)	
<b>派遣先の研究機関等(調査を実施した国名・機関名(日本語で記載)及びカウンターパート名)：</b> インドネシア共和国/リアウ大学/数学自然科学部/アフマッド・ムハンマド講師 *派遣先の研究機関等の種類について右記の該当する箇所に○をつけてください。( <b>大学</b> 研究機関・企業・その他 )	
<b>派遣先の研究機関等での職名：</b>	
<b>派遣期間：</b> 平成 24年 11月 5日 ~ 平成 24年 11月 15日 (派遣日数： 11日)	
<b>研究活動等の主な内容(該当する番号に○をつけてください。複数可)</b> ① 究・実験 ② <b>フィールドワーク</b> ③ <b>セミナー</b> ④ インターンシップ ⑤ サマースクール等の講習 ⑥ 学会出席 ⑦ 単位取得等 ⑧ その他	
<b>研究活動の主な領域(該当する番号に1つ○をつけて下さい。)</b> ① 文学 ② 社会科学 ③ 数物系科学 ④ 化学 ⑤ 工学 ⑥ <b>生物学</b> ⑦ <b>農学</b> ⑧ 医歯薬学 ⑨ 総合領域 ⑩ 複合新領域	
<b>派遣の概要(500~700字程度)</b> <p>インドネシア、スマトラ島東部、リアウ州において研究会及び現地野外観測を行った。          11月5日に、プカンバルにあるリアウ大学を訪問し、アフマッド講師・ハリス講師・その学生らと共に、泥炭地の物質循環機構解明のためのフィールド観測について、研究計画などを中心としたセミナーを開催した。</p> <p>翌日から、同州、タンジュンルバン村にある現地観測サイトに移動し、泥炭地の物質循環に関する生物地球化学的観測のための設備づくり、観測器具のインストールを行った。</p> <p>人為攪乱を受けた泥炭地から、現地で頻出する環境を2点選び、1地点は泥炭湿地林の伐採後に火災が入り、拉致化している地点、もう1点は伐採後にオイルパームの植林を行った地点を選定し、観測機器を設置した。          リアウ大学の学生等と共に、設置した水位計を用いて、泥炭地の地下水位測定や、水質分析のための地下水・河川水採取を行った。</p>	
<b>事業に係る研究成果(500~700字程度)</b> <p>今回の派遣は、現地研究者と今後の共同研究について打ち合わせること、また、そのための観測機器の設置と試験的な試料の採取を目的とした。リアウ大学ではアフマッド講師らと今後の共同研究の方針について打ち合わせをし、学生と共に綿密な観測を行っていくことなどを確認した。</p> <p>現地調査に関しては、リアウ大学の学生らと共に、調査機材の調達から加工、フィールドへの設置までを行った。さらに、地下水位の測定、地下水試料の採取、濾過作業の指導をするとともに、今後の研究活動の展開についての打ち合わせを行った。また、別の学生とは、泥炭湿地の地表面から放出される二酸化炭素の放出速度測定用チャンバーの設置、チャンバーからの採気作業等を行い、泥炭地の炭素循環についての観測を開始することができた。</p> <p>これら学生とは、今後も綿密に連携しつつ、彼らの卒業論文のテーマとして研究を進めていく予定である。また将来的には、彼らが日本に短期交換留学生として来られるような体制にしていきたいと考えている。</p> <p>また、フィールドワークの際には、現地の住民の家庭に滞在させていただくことで、現地の方の泥炭地に対する意識等を知ることができた。</p> <p>これらの活動は、今後の研究の展開に対して大いに役立つものと考えられる。</p>	